

(別記)

一宮市地域農政推進協議会水田フル活用ビジョン

1 地域の作物作付の現状、地域が抱える課題

当該地域は、全耕地面積に占める主食用米面積の割合が約 85%を超えるほど主食用米偏重である。今後も主食用米の需要は、低下傾向であり、収益性においても低下すると思われる。このため、主食用米からの転換が最優先課題である。

2 作物ごとの取組方針等

(1) 主食用米

売れる米作りの徹底により米の主産地としての地位を確保する。前年の需要動向や集荷業者等の意向を勘案しつつ米の生産を行う。また、外食のニーズに対応した業務用米の生産と安定取引の推進を図る。

(2) 非主食用米

ア 飼料用米

主食用米の需要減が見込まれる中、飼料用米を転換作物に位置づけ、生産量の増加を図る。飼料用米の生産拡大にあたっては、多収品種での作付拡大を図りつつ、コンタミ防止の観点から主食用品種でも対応する。

イ 米粉用米

実需者との結びつきを強化しつつ、JAの系統販売を主に生産を行っており、需要に応じて生産の拡大を図る。米粉用米の生産拡大にあたっては、多収品種での作付拡大を図りつつ、コンタミ防止の観点から主食用品種でも対応する。

ウ 新市場開拓用米

JAの系統販売を主に輸出の拡大を図る。

エ 備蓄米

主食用米の転用で簡易に取り組めるため、現状の面積を維持していく。

(3) 麦、大豆

水田のフル活用、所得向上のため二毛作を主に現状の面積を維持していく。

(4) 高収益作物（野菜等）

水田の高機能化、生産性向上のため、「野菜」、「花き・花木」の高収益作物の生産拡大を図る。

(5) 畑地化の推進

高収益作物を中心とした営農体系への転換を前提に畑地化を促進する

3 作物ごとの作付予定面積

作物	平成 29 年度の作付面積 (ha)	平成 30 年度の作付予定面積 (ha)	平成 32 年度の作付目標面積 (ha)
主食用米	1620	1600	1570
飼料用米	76	76	80
米粉用米	16	16	20
新市場開拓用米	—	1	1
WCS 用稲	—	—	—
加工用米	—	—	—
備蓄米	4	4	4
麦	1	1	1
大豆	—	—	—
飼料作物	—	—	—
そば	—	—	—
なたね	—	—	—
その他地域振興作物	3.7	4	6
野菜	2.6	3	5
花き・花木	0.8	1	1
地力増進作物	0.3	0	0

4 課題解決に向けた取組及び目標

整理 番号	対象作物	使途名	目標	目標値	
				現状値	目標値
1	飼料用米	飼料用米の生産支援	取組面積	(29 年度) 76ha	(32 年度) 80ha
2	飼料用米・米粉用米 (多収品種)	飼料用米・米粉用米 多収品種の導入への 助成	飼料用米導入面積 米粉用米導入面積	(29 年度) 2.7ha (29 年度) 0ha	(32 年度) 8ha (32 年度) 0.3ha
3	米粉用米	米粉用米の生産支援	取組面積	(29 年度) 16ha	(32 年度) 20ha
4	高収益作物(野菜、 花き、花木)	高収益作物に対する 支援	野菜作付面積 花き作付面積	(29 年度) 2.6ha (29 年度) 0.8ha	(32 年度) 5ha (32 年度) 1ha

※必要に応じて、面積に加え、当該取組によって得られるコスト低減効果等についても目標設定して下さい。

※ 目標期間は3年以内として下さい。

5 産地交付金の活用方法の明細

別紙のとおり